

ジャパンプラブ

NEWS LETTER

Japan Club : 1759 Sutter Street #203, San Francisco, CA 94115 • Tel: 415-931-9424 • www.jpclub.org • jc-sf@sbcglobal.net

6月度理事会報告

今月の理事会ではジャパンプラブのこれからの在り方について活発な意見交換がなされる

第18回ジャパンプラブ 定期総会は7月21日

ジャパンプラブの大事な総会であると同時に、美味しい事で評判のレストランで楽しい会食が出来ます

6月度理事会はサンマテオ桜木マーケット2階に於いて、つい数日前日本からお帰りになった上野会長を始めとする11名の理事が出席して開かれました。

議題1. ガレージセールの報告

多くの品物のご寄付を得て昨年にも増して良い成績が取られた由、北理事から報告がありました。さらに今迄の経験から来年度のガレージセールに向けて種々の提案がありました。収支報告は、総売上 \$1,315.46、諸経費 \$279.60 で Net 収益は \$1,035.86 となりました。それぞれの形でお手伝い、ドネーションくださった皆様、ありがとうございました。

議題2. 先に提案のあった事項について

- 会友制度制定について、会員及び理事の推薦を得て理事会で決定する、会友に対する処遇は「会費の免除」「会報の定期送付」「会の催しに招待する」を基本とする、等を決めました。この新しい制度については今後実際の運用の中で時間をかけて修正、追加等手を加えて行く事になります。
- フェイスブックへの登録、若手会員の獲得に繋がればとの思惑からスタートしたジャパンプラブ・フェイスブックへの登録について、浦田理事からの中間報告として「まだまだ具体的な効果は出ていない」「これによってすぐに効果が出る事を期待する事は難しい」との説明がありました、しかしこの様な取り組みの一つ一つが将来何らかの形で結実する事を期待します。
- 今年のメモリアルデーの式典には、福光副会長が代表して出席しました。
- ジャパンプラブの積み立て準備金(仮称)の有効利用について

ガレージセール盛況裏に終わる 今年も北さんの尽力で大成功

ジャパンプラブ恒例のガレージセール2012。今年も5月26日(土)、例年通りバーリングゲームの会場で開催、当日は開店前の朝8時から閉店の午後3時迄、買い物客が途切れる時間が無いほどの賑わいでした。

会場には会員の倉橋和久さんの紹介で、サンフランシスコ在住のケイコ・ジョンソンさん、昨年ハワイに移住された坪井博子さんからの大量のドネーションの品々に加えて、柏原紀子さん、下村昌子さん、榎木隆子さんや大槻悦子さんらが友人たちから集めた多彩な品々が持ち込まれ売り場スペースにあふれていました。

ガレージセール当日と準備の為の前日25日には殆どの理事が手分けして働きましたが、理事以外にも力の衰えた理事をヘルプして力仕事をこなしてくれた早川真佐緒さん、入会したばかりの宇田川博文さん、セールスを主体に働く女性理事に混じって上野会長夫人、大隅妙子さん、商品を値切る客相手まで終日奮闘しキャッシャーをまかされた正田和子さん、作業する人達のまかない等雑用をこなした北良子さんらの一般会員の人達の素晴らしい協力のおかげで最高のガレージセールでした。

最高の働き手と言えば、今年も成功の立役者は北哲也さん、過去5回の経験を生かしての手際の良い会場作りからPR作業、品物をドネーションする人があれば、駆けつけピックアップ、セール中は働き手にテキパキとアドバイス、終了後は来年に向けての売れ残り商品の収納、加えて会場中に散らばるゴミの収集とまさに八面六臂の活躍に感謝、カンゲキ!!

議題3. ジャパンプラブ再生への提案

ジャパンプラブ積み立て準備金の有効利用と合わせて皆さんから沢山の活発な意見が出され、会の今後に対する危機感を強く表していました。当初、福光副会長の意向としてはある程度の方角をまとめ、総会で広く会員に紹介したいとの事で進められましたが、内容が多岐にわたる事、今はアイデアの段階でさらに検討を加え具体性のあるものにしなければならないもの等があり今回の総会での発表は見送り、さらに理事会で話し合う事になりました。

この話し合で出された提案の中で以下の事項は具体的に進めて参ります

- 1) 女性会員を中心に据えた講習会の様なものを企画する
- 2) 日頃のちょっとした疑問、生活の中でおきる種々の問題等を気軽に相談出来る方法や場所をつくる
- 3) ニュースレターのカラー印刷化による会員への還元
- 4) 緊急連絡網リストに加えそれぞれの地区の避難場所など有用な情報の入った地図等の作製
- 5) 会員の平均年齢のアップに伴う問題、冠婚葬祭等に対する助言や具体的な手伝いなど高齢会員の援助
- 6) 同好会の活動をもっと積極的に支援する、年数回の食事会など具体化する

この他、沢山の意見が出ました、これからの理事会で出来るところから一つ一つ具体化して行きます。

議題4. 総会

今月のニュースレターに申し込み用紙、欠席者の為の委任状等を同封する

議題5. ゴルフ大会

今月のニュースレターにお知らせを掲載、申し込み締め切りは7月13日まで下記の案内を参照して出来るだけ多くの参加を期待します。

議題6. その他

サンフランシスコ領事館、元領事相談員の市川俊治さんの助言で多くの方が問題解決に至っているとの事、これからも年金の事等ご質問がありましたら、直接あるいはジャパンプラブ事務局を通してお問い合わせください、市川さんからも喜んでお手伝いしますとのお申し出をいただいております。

以上です、来月の理事会は7月14日(土)ジャパンプラブ事務所で午後1時より開きます。

ジャパンプラブ・ゴルフ大会



日時: 7月29日(日曜日)午前10時スタート
9時30分までに集合してください

場所: Willow Park Golf Course

方式: ダブルペリア方式

参加費: \$ 65.00

締切: 7月13日

申し込み・チェック宛先: ジャパンプラブ

問い合わせ: 沖山理事(415)753-6492・大隅理事(415)221-9566まで

私の北米移民 赤川稔さんからの寄稿

私が北米に移民して来たのは1979年でした。カナダの小さな工作機械の販売会社にロボット技術者として就職しました。新規事業部(ロボットシステム事業部)は私1人からスタートしましたが4年で30名の規模になりました。

ここで驚いたのは29歳で就職、1年後に新しい社用自家用車を頂き4年間で給与が3倍になったことでした。32歳の時には大学教授なみの給与になったのです。当時の日本国内では考えられない事で、若者にもチャンスを与えてくれるまさにアメリカンドリームだと思いました。日本の会社では退社前に同僚から米国は実力主義で人種差別もあり、「路頭でクォータ・ブリーズと叫ぶ事になるから止める」と忠告された事が昨日のようです。その後、ベイエリアで自分の会社を作り、そこで地獄と極楽の反復人生がくりかえされる事になったのです。話を前に戻しますと、私は中学生の頃から空を飛んでいる飛行機を見て一生に1度でも良いから飛行機に乗ってみたいと思っていました。しかし、その時は貧乏で夢物語でした。

そして、工業高校の機械科に入り、沖電気に就職、生産技術者を任命されました。仕事は面白く、昭和40年入社の人達を集めて40年会(シマルカイ)を発起しました。200名程度の会員で会長として色々活動しました。同じ頃、夜学に通い経営学を学ぶ事になりました。経営学と生産技術は関係が深いからです。暫くしてから、生産技術の不良社員グループ(怠け専門社員)と付き合う様になったのです。彼らの言い分は働いても働かなくても給与はそんなに変わらない。だからあくせく仕事する必要はないと言うのです。当時は年功序列で毎年同期の昇給額は殆ど差がありませんでした。不良社員グループは生産技術者の特権を使い外出して遊んだり会社では席を外してぶらぶらし、サボル、スリルを楽しんでいました。このような事を繰り返しているうちに私は段々会社がつまらなくなり、結局5年後に希望退社する事になったのです。そして、不良社員グループが私の今後の人生の大きな先生となりました。

再就職したのは、時計のセイコーでロボットの開発設計でした。ここでは設計と販売をします。前の会社の不良社員グループから学んだ事を元に、如何に拘束された勤務時間を面白く過ごすかと考えました。そこで考えたのが、自分自身のゲームを楽しむ事、それは自分が目標を設定しそれにモチベーションにチャレンジし達成させる事でした。

会社に対しては給与の5倍稼ぐ事(経営の自己教育)、設計ではミスがなくスピードは人の2倍、それが達成できればそのまた2倍、これを本当に一生懸命日々チャレンジしました。驚いた事に3年程度で2倍程度のスピードで設計が出来る様になりました。他の技術者が6週間で終わらせる設計を3週間で終わらせる事が出来たのです。毎日毎日が大変な自分との戦いでしたが仕事のスピードと正確度のチャレンジが時間を忘れる程、面白くなりました。

仕事のスピードを早くし給与の5倍稼ぐという目標は会社の為でなく自分の為だったのです。米国では給与に見合った働きをするのが一般的ですが私はそれが正しいとは思いません。山登りで苦労して頂上に達した時の充実感、陸上の選手が100m競争で時間を短縮した時と同じ様な満足感が仕事で得られる。学校は授業料を支払って先生に感謝しながら理論を学ぶ、会社は、給与を貰い実践で学べる、こんな良い所はありません。そして仕事を速くこなす事、すなわち他人より数倍の早さで仕事上の問題を解決し実践の経験を積む事は自分の人生での問題解決のスピードも早くなります。

3年間勤めた後、ある日突然、ニューヨーク駐在を命じられました。他の優秀なエリートの先輩が沢山いた中で、学校の成績が悪く英語も出来ない高卒の私がなぜ?

ここから、私は米国で波乱に満ちた人生を過ごす事になるのです。これから先は長くなるのでこの辺で終わります。続きは又、別の機会に。私は5月24日に foothill Ranch, CA (アーバイン市の隣町)に引越し致しました。ジャパンクラブの皆様には大変お世話になりました。私の携帯電話番号、E-メール・アドレスは変わりませんのでロサンゼルス近辺に來られましたらご連絡下さい。 それでは、又。 赤川 稔



サウジアラビア便り

3

サウジアラビアの小川康弘です。御無沙汰しています。

早いもので、サンフランシスコからリヤドに転勤して1年6か月が経過しました。

リヤド近辺にも18ホールのゴルフ場が2か所ありますが、私はゴルフをしませんので、週末(当国では木曜日と金曜日)の午前中は大使館で外務本省からの連絡事項をチェックし(日本との時差は6時間)、午後は自宅で本を読むか、DVDを観て過ごしています。夏季は華氏122度を超えるので、日中は屋内で過ごすことが多くなります。

日本大使館や総領事館には、任期を終えて帰国したり、別の国に転勤する館員が離任の際に置いていった本がいくらかあります。もちろん、日本の最新作はありませんので、それなりに古い本しかありませんが、今まで読んでことのない作家に出会える楽しみがあります。本省での勤務は毎日残業するので、読書する時間が少なかったこともあり、在外勤務では週末に読書する方も多いうです。

新しい任地に到着したら任国や任地に関する本を読みますが、一段落したら小説等に手を広げることになります。私が過去の任地で手にして特に好きになった作家は、初めての海外勤務地であるインドのニューデリーで池波正太郎氏(当時の私は26歳でしたが、今年52歳になります。何度も読み返していますが、読後に感じることは加齢と共に変わりますね)とフィリピンのマニラで塩野七生氏(「ローマ人の物語」の第一巻を読んだとき、これが完結するのは随分先のことだなあと感じましたが、6年前に完結しました。

サンフランシスコ領事館の小川康弘前領事がサウジアラビアの首都リヤドの大使館に赴任されて早くも1年6ヶ月になります、お忙しいお仕事の合間に「サウジアラビア便り」として現地の実体験や様子を送ってくださいます、今回は第3便をいただきましたので掲載します。

時の流れは光陰矢のごとしです(ね)です。このほかにもいろいろな作家の著作に出会いました。

サンフランシスコでは私が住んでいたジャパントウンに市立図書館があるので、比較的新しい日本の本を読むことができたのは幸いでした。

さて、転勤による新たな出会いはほかにもあり、毎日の生活で影響が大きいのが住宅と被雇用者です。途上国では人件費が安いので、メイドさんや運転手を雇用することができます(雇用は義務ではありません。外務本省から補助は出ないので、私の給料の中から彼らの月給を支出することになります)。借家や被雇用者に恵まれるか否かは結構切実な問題です。サンフランシスコでは住宅の新築工事の騒音に悩まされることはありませんでしたが、途上国や新興国では住宅街でも高層アパートの建設が盛んで、私が勤務したマニラとジャカルタでは、いずれも私が住んでいたアパートのすぐ隣で高層アパートの新築工事が夜間も行われたため、騒音には往生しました。当地リヤドは私が住んでいる住宅のすぐ隣の空き地で2011年1月から2階建て住宅の建設工事が始まりましたが、建設の様子を見ていると完成までは未だ遙か遠く、毎日すごい騒音です。まあ、夜間は工事が行われなため、静かなのはありがたいですが。

今年も夏は暑いそう...

日本から村井侘子さんのご寄稿

六月中旬の日本は梅雨の季節に入る。横に長い日本列島では、春の桜前線と同じく沖縄から順々に北上してくる。そして一ヶ月近くもじめじめした日が続くのだ。TVや新聞で気象情報を毎日みる。

日本民族はもともと農耕民族であるから殊更に気候の変化には敏感であるとか何かの本で読んだことがあるが本当だと思う。サンフランシスコに住んでいた頃は、日本のようなはっきりした四季のない不稔な天候に不満をおぼえたこともあったのに、今、日本に住んでみてベイエリアの一年中湿度の少ない、暑くもなく寒くもないあの日々の何と住みやすかったことかと改めて思い知らされる。

新聞を読んでいて「六月無礼」という言葉を知った。暑さのきびしい時期には服装が多少乱れても大目に見てもらえることをいう。味のある古語である。去年も今年の夏も猛暑という予想。原発が作動しなくなり日本中節電の声がとびかう。働く人達の職場でも家庭でも「クールビズ」とやらが巾をきかせ、役所でも、あの堅苦しい背広姿でなくラフな格好が至る所で目に付くのも理にかなって言う。

ある程度節度のある「六月無礼」大いに結構! 高温多湿の夏を私も乗り切ろうと考えている。

